

# Global & Localの知と人材の 創出拠点として

- オンラインの教育・研究の担い手と多様性の確保のため -

平成22年8月



KAGAWA  
UNIVERSITY

国立大学法人

香川大学

# 平賀源内・久米通賢等の先人の意志を現在に伝える大学として



塩田開発  
測量技術



エレキテル  
漢方医学  
火浣布

## 古い歴史と新しい学問体系を有する大学として

- 明治9年：香川師範学校開校(教育学部の前身)
- 明治39年：香川県立農林学校開校(農学部の前身)
- 大正12年：高松高等商業学校開校(経済学部の前身)
- 昭和60年：連合農学研究科(愛媛、香川、高知三大学により構成)
- 平成16年：地域マネジメント研究科(四国唯一のビジネススクール)

## 高度な研究実績と地域への還元

- 世界で初めての希少糖の生産技術の確立
- D-プシコース食品の特定保健用食品への活用
- 遠隔医療ネットワーク(K-MIX)の開発及び実用化
- 周産期医療情報ネットワークから、遠隔医療、県内島嶼部をつなぐ医療ネットワーク等として県の医療を支え、県外にもネットワーク拡大中
- 微細構造デバイス技術の開発
- 手のひらサイズ分析機器、県内企業との産学連携、源内ものづくり塾(企業の人材育成)
- 地域性・地の利を生かした瀬戸内研究
- 赤潮研究、エコツーリズム等

# 香川大学が地域の国立大学として果たしている主な役割

## 地域内の主要な高等教育の場、他県の若者の来讃の場

本県内高校卒業者で本県の大学への進学者（810人）のうち365人（45%）が本学へ進学。  
他県高校卒業者で本県の大学への進学者（1,274人）のうち931人（73%）が本学へ進学。

## 高度専門職業人の養成の場

本県の大学院生（952人）のうち856人（90%）が本学に在学。

## 高い水準の研究の推進と地域の「創造」の源泉としての貢献

平成22年度科研費採択状況

本学採択件数 218件、教員1人あたり採択率 31%

県内他大学採択合計件数 15件、教員1人あたり採択率 9%

産学官連携による新産業創出への貢献 マイクロマシン技術を用いた小型光学マルチガスセンサ  
希少糖を使った新規機能性食品等の開発 等

瀬戸内圏研究による地域の課題(海苔の色落ち現象の解明と対策技術の開発、地域文化の発見と観光  
資源の創造、生涯健康カルテ(EHR)ネットワーク構想)の解決に向けた研究と提言

特別支援教室「すばる」でのLD(学習障害)、ADHD(注意欠陥・多動性障害)等の児童生徒への支援

## 優れた医師養成、高度先進医療の提供、地域医療の中核

第104回医師国家試験で合格率97.2%(全国4位)

県内最大の臨床研修の場(平成22年4月現在の臨床研修医数79名(中国・四国で2番目の数))

## 地域の生涯学習の場

地域マネジメント研究科、法学部・経済学部夜間主コースによる社会人の積極的な受け入れ。

特別支援教育コーディネータ専修での現職教員へのリカレント教育

香川大学は時代や国民ニーズの変化にあわせた大学改革の推進（学内資源の有効活用）に積極的に努力

新たな学部（教養学部（仮称））の設置（学内再編による）  
→実践的な教養を持つ香川発のグローバルな人材の養成

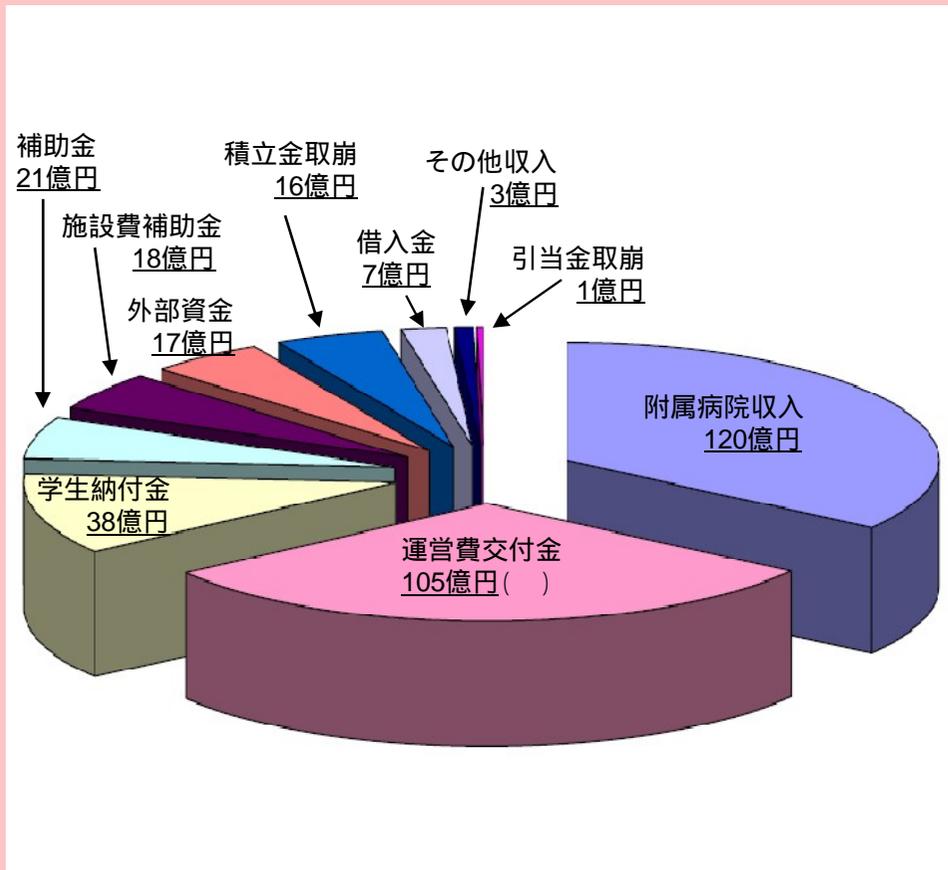
教育組織と教員組織の分離  
→学術研究進展及び社会ニーズに対応した教育研究への柔軟かつ迅速な対応

大学院再編（人文社会系博士課程設置等）  
→高度な専門職業人の養成の強化

# 本学の財政状況

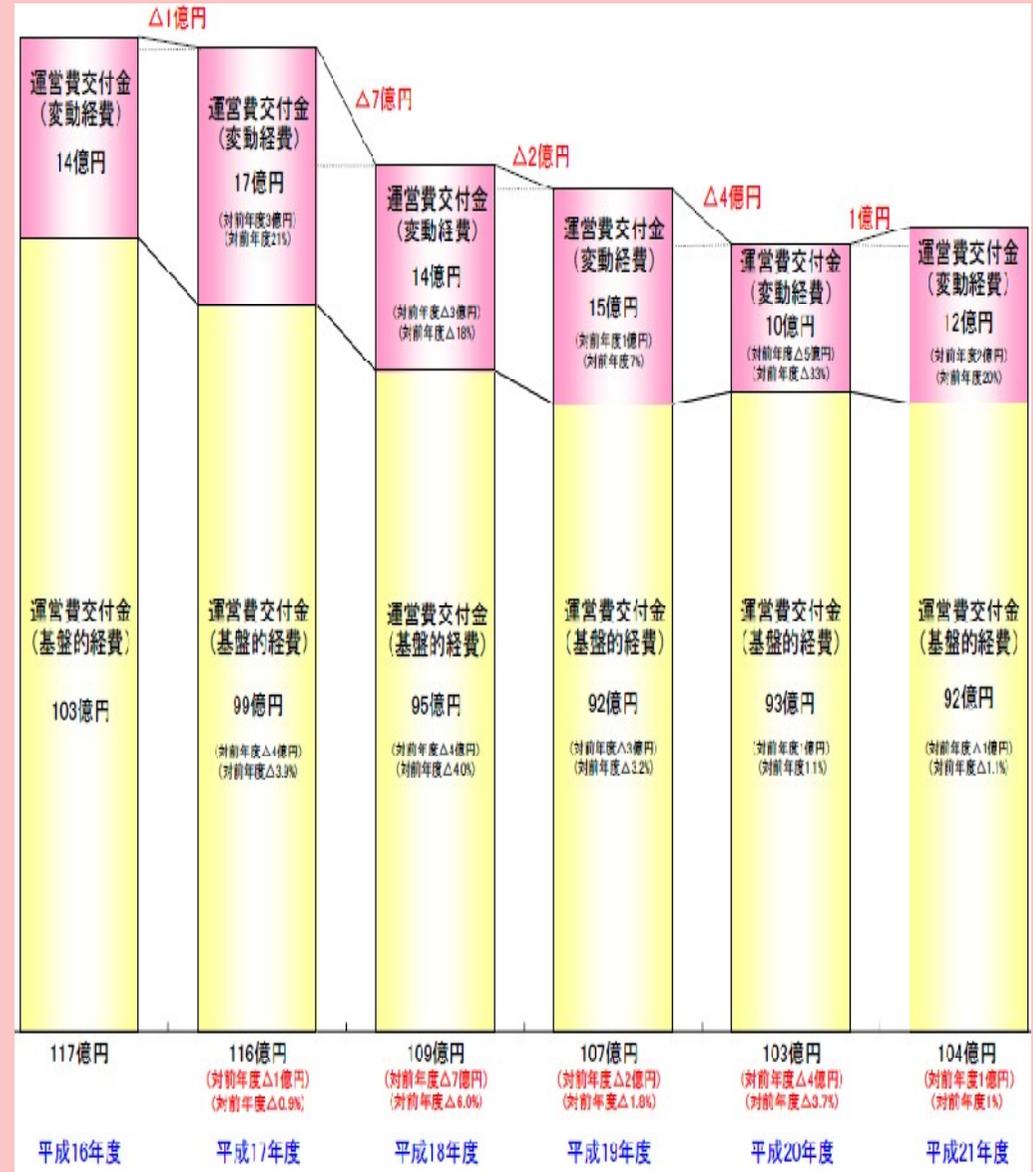
## 平成21年度収入決算

**総収入額 346億円**



( ) 予算額104億円に対し、不足した退職給付金1億円分を過年度の運営費交付金債務から収益化したことによる。

## 運営費交付金の推移



# 生物多様性の確保と、教育・研究の多様性の確保は類似概念

「種の分化・進化」  
→ 遺伝子による形質の伝承と異なる環境に対する棲み分け

種の多様性

「生物多様性」

生態系の多様性

個の多様性

「気候・地質・生育環境の多様性」  
→ 無数の生物種の組み合わせにより、各気候・地質・環境に合わせて適者生存。

「遺伝子的変異の多様性」  
→ 各個体の持つ遺伝子が多様であるほど、環境の変化、外的などの擾乱に強くなる。

・新時代の要請に伴い新たな学問分野を創成  
・個人のオリジナルな研究を吸い上げ、次世代に継承  
・たこつぼ的な学問分野から脱却した、分野融合

学問分野の多様性

「教育・研究の多様性」

教育・研究環境の多様性

個人の研究の多様性

・企業、大学、官の互いの研究内容、実務内容の尊重と、各セクターの最適な組み合わせにより課題解決、価値創出  
・オリジナルな個を生み出し、活かす教育  
・多様性を確保できるような官の支援

・他者とは違うオリジナルな研究  
・研究の評価・選別(後世に残すか否か)と、新しい芽の確保  
・漸進的イノベーションを支える多数の選択肢の用意と、破壊的イノベーションを生み出す突然変異的シーズの創出

大学は多様性の宝庫であり、多様性の削減は、社会の多様性を減らすもの

# リージョナルセンターとして香川大学が果たすべき役割

